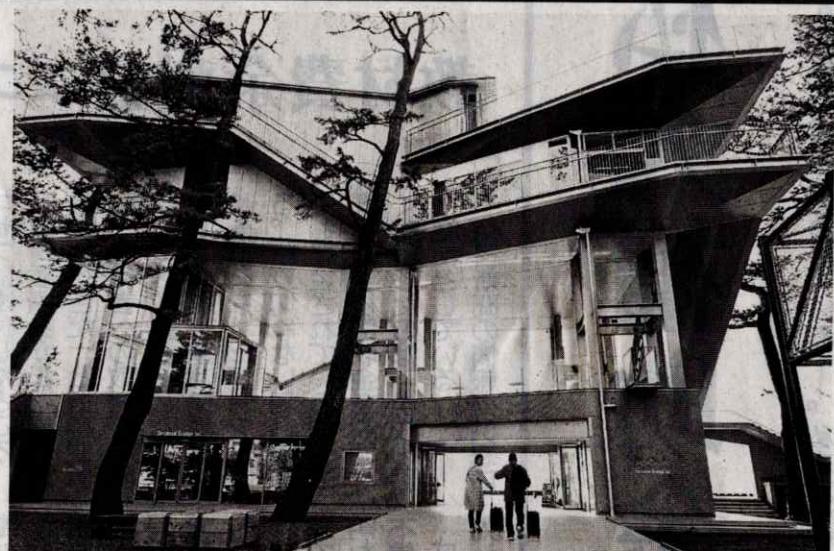


# 10メートル津波想定 伊豆・土肥の異色避難タワー



伊豆市土肥地区にある津波避難タワー「テラッセ オレンジ トイ」



南海トラフ巨大地震が想定される伊豆・土肥の異色避難タワー。2011年東日本大震災後、津波想定で建設された。塔の高さは約19メートルで、松や太陽に映えるガラス張り。3階（海抜14メートル）以上を避難スペースとし、周辺に津波避難タワーが設置されたが、伊豆半島の西側、太平洋を望む松原の間に外周の階段が特徴的な「テラッセ オレンジ トイ」が立つ。

南海トラフ巨大地震を想定して、伊豆市土肥地区に建設された津波避難タワー。飲食店や土産売り場を備えた津波避難タワーがある。普段は観光客らの憩いの場に、災害時は1000人以上の命を守る。全国に例がなく、昨年7月の開業以来、10万人以上が訪れたが、課題も見えてきた。

**昨年7月に開業**  
伊豆半島の西側、太平洋を望む松原の間に、外周の階段が特徴的な「テラッセ オレンジ トイ」が立つ。土肥地区は首都圏に近く、海水浴と温泉が楽しめる。2011年東日本大震災後、「津

4階建てで1階に土産物や地物の野菜などを売る特産市、3階に地の東日本大震災後、「津

魚料理を出すレストランが入る。3月下旬、多くの人がきわどく、子が見られた。  
**食品や飲料備蓄**  
南海トラフ巨大地震にかけて、海底に延びる溝状の地形（トラフ）に沿って発生する地震。おおむね100～150年間隔で起きるとされ、政府の地震調査委員会は今年1月、今後30年内に発生する確率を「70～80%」から「80%程度」に引き上げた。3月31日、政府の作業部会が新たに発表した被害想定では、31都府県の計764市町村が震度6弱以上か、高さ3メートル以上の津波に見舞われ、最大で29万8000人が死亡するとされた。

23年4月までに全国に建設された津波避難タワーは431基。周知不足でいざという時に使われなかった場所もある。市の担当者は「タワーを使って観光客や住民の命を守り、町を盛り上げられる」と話した。

# 観光と両立課題も

## 店舗併設 10万人来訪

南海トラフ巨大地震を想定して、伊豆市土肥地区に建設された津波避難タワー。飲食店や土産売り場を備えた津波避難タワーがある。普段は観光客らの憩いの場に、災害時は1000人以上の命を守る。全国に例がなく、昨年7月の開業以来、10万人以上が訪れたが、課題も見えてきた。

南海トラフ巨大地震を想定して、伊豆市土肥地区に建設された津波避難タワー。飲食店や土産売り場を備えた津波避難タワーがある。普段は観光客らの憩いの場に、災害時は1000人以上の命を守る。全国に例がなく、昨年7月の開業以来、10万人以上が訪れたが、課題も見えてきた。

南海トラフ巨大地震を想定して、伊豆市土肥地区に建設された津波避難タワー。飲食店や土産売り場を備えた津波避難タワーがある。普段は観光客らの憩いの場に、災害時は1000人以上の命を守る。全国に例がなく、昨年7月の開業以来、10万人以上が訪れたが、課題も見えてきた。

南海トラフ巨大地震を想定して、伊豆市土肥地区に建設された津波避難タワー。飲食店や土産売り場を備えた津波避難タワーがある。普段は観光客らの憩いの場に、災害時は1000人以上の命を守る。全国に例がなく、昨年7月の開業以来、10万人以上が訪れたが、課題も見えてきた。